

“糖化”をストップ “マンゴスチン”！

“糖化”とは、私たちの身体にある“タンパク質”と食事で食べた“糖”が結びついて“糖化反応”が起こることです。すると、「活性酸素」に反応し“AGES(終末糖化産物)”という物質ができてしまします。

- “AGES”が体内に蓄積されるしくみは2つあります。
- ①「空腹時血糖」が正常でも「食後血糖」が高いと(糖過剰)、身体の細胞や組織を作っているタンパク質に結びつき、“AGES”に変化します。
 - ②“AGES”値の高い食べ物(加熱して焼けたキツネ色の部分に多く含まれる)を摂取することで体内に蓄積されます。



この“AGES”が蓄積すると、全身の組織が劣化(老化)し、加齢が促進します。

その結果、「心筋梗塞」や「脳梗塞」の原因となる“動脈硬化”が進行したり、「アルツハイマー」、「骨粗鬆症」、「がん」などの原因になることがわかつてきました。又、肌のしわ、シミ、たるみ、関節の変形、歯周病などにも“AGES”が深く関わっています。

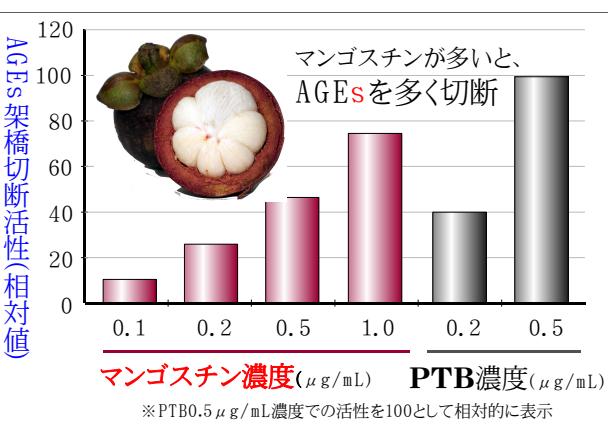
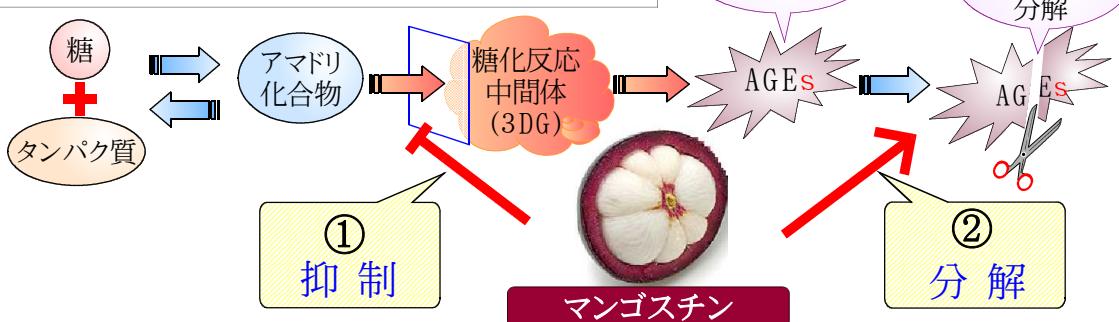
身体のエネルギー源として「糖」が必要ですが“AGES”は防げないのでしょうか…？果実の女王と呼ばれる「マンゴスチン」の“果皮”には強い“抗糖化力”+“抗酸化力”があり、“AGES”的蓄積を防ぎ分解する作用があります。

更に、「マンゴスチン」にはコラーゲンやヒアルロン酸を増やして、お肌に潤いを与える作用もあります。その作用は、次のように



「マンゴスチン」は“糖化反応中間体”を抑制して“AGES”を防ぎます。

- ① マンゴスチンは「糖化反応中間体」を抑制し
- ② 生成した「AGES」の架橋を切断し、「AGES」を分解する作用があります。



資料は、日本新薬提供

マンゴスチンは「AGES」架橋を分解

タンパク質が“糖化”すると「AGES」が生じ、タンパク質間で“架橋”を形成します。その架橋構造が「ジカルボニル構造」と云われ、癌・糖尿病発症の原因になります。

「マンゴスチン」はこの構造を切断し「AGES」を分解する化合物(PTB)と同じ働きがあります。